Tekye Meter Shew

2004



VOL. 平成16年11月6日 東京モーターショー2004 ② 働くくるまと福祉車両



秋晴れのポカポカ陽気が続いている。5日は会期中盤を迎えて落ち着きを取り戻し、来場者も幅広い層で賑わっていた。 今回は中央メイン通路の幅が拡張されたこともあって人の流れは順調、車いす来場者も多く見かけた。会場南休憩ゾー ンで展開している人気のトラフィック戦隊アンゼンジャーショーは連日、子供づれ、若いカップルで埋まり大盛況。

ハード、ソフト両面での総合サポート力を訴求

いすゞ自動車

特別ステージ上部に今回のテーマである「プロフェッシ ョナルパートナー」の文字パネルを堂々と掲げたいすゞ。そ の意味するところは「ハードの面でもソフトの面でも、も のづくりの原点である利用者の立場に立った開発とサー ビスを行い、成長に向けたチャレンジ精神を感じ取ってい ただきたいということです」(井田義則社長)。

ハード面では参考出品7台を含む12台と、9基のパワート レイン(参考出品3基)を出品。

環境技術については、いすゞがディーゼルエンジンの核 としている「I-CAS」技術をベースに開発した6気筒と4気筒 の新長期対応エンジン2基を出品。低公害車両では、CNG(圧 縮天然ガス)-MPI、DME(ジメチルエーテル)、ハイブリッド のそれぞれに対応した「エルフ」を参考出品し、どの動力源





立たせる"白い軍団"

が主流になっても対応できるように"巴揃え"の技術力を アピールしている。

「ハードを作り、売るだけの時代はすでに終わった」(井 田義則社長)と考えるソフト面での取り組みは3つ。その1 つ目が、運送会社向けに1995年から実施している省燃費運 転方法のセーフティ/エコノミードライブセミナー。国内で

> はすでに4500社の実績。今後は海外にも拡 大する。

2つ目が、商用車用テレマティクスの「み まもりくんオンラインサービス」。ドライバ ーごとに燃費向上策やコスト管理を提供。 今年2月から大型トラック向けに開始し、す でに約350台に採用。3つ目が、24時間体制 で出張修理する「オハヤクサービス」である。



▲CNG、DME、ハイブリッド何でもござれの「エルフ」低公害車トリオ

「Open all roads」をテーマに、サンバーをフルラインナップ展示

スバル

「Open all roads クルマと生きる歓びを、すべての人に」 をテーマに、商用車コーナーでは高い走行性能、優れた荷 役性で好評を得ている「スバル サンバー」の豊富なライン ナップを展示している。



ズな通信手段を 確保している。

◀使い勝手の良い物流プロ 仕様の宅配専用車

下肢が不自由な人 ▶ も体感できるドラ

なかでも来場者の人垣を集めているのが、参考出品モデ

ルの「SAMBAR Van トランスポーター 物流プロ仕様宅配

専用車」。キャビンと荷室間に設けた隔壁の左側上部の開 閉式窓によって長尺物も積載できるほか、洋服用脱着式ハ

ンガーを設置するなどユーザーの使い勝手を追求。また、 キャビンに端末の無線装置、プリンターを装備してスムー

スズキ

動く販売スポット「アルト ハートスタンド」に黒山の人だかり

「小さなクルマ、大きな未来」をテーマとするスズキは、参 考出品車5台、市販車11台を展示した。

ブースの中で一段と楽しく華やかな雰囲気を醸し出しているのが、9月13日発売の新型アルトをベースとしたコンセプトカーの「アルト ハートスタンド」だ。

展示車は、流行に敏感な都会のOLや主婦層に人気がある「Plants・Plants」(プランツ・プランツ)とのタイアップによる、魅力的な花や鉢植えの移動販売車に仕立てられている。



▲40インチの広告サイドパネルを持つ「アルト ハートスタンド」

低公害車を多数展示する国交省ブース

西ホールでは国土交通省が次世代低公害車プロジェクト「EFV21」など、環境対応に関する展示を行っている。中心となるのは、代替エネルギーやハイブリッド技術を駆使した低公害商用車4台。最も注目されていたのはエンジンで発電した電気で走行する低公害モデル、三菱ふそう製のシリーズハイブリッドバスのエンジンを改良したモデル。既存モデルの半分の燃費、新長期排ガス規制を大きく下回る低公害を目指す。ほか、スーパークリーンディーゼル、パラレルハ

イック、テルエーデルストルエーデルで、世界では、大ルエーデルをでいる。大いながれる。





▲元気で明るい演出のスズキ・ブース

駐車した場所がそのまま販売スタンドになるので、花の移動販売だけでなく、健康志向の「酸素バー」や若い女性向けの「携帯デコレーション」、子供を対象とした「街頭デジタル紙芝居」といった、いろんな移動販売を目的とするユーティリティカーに仕立てられる。

助手席ドアとバックドア、サイドのハネ上げパネルを開けると商品を陳列する展示棚が四方八方に出現する。そればかりか、サイドパネルには40インチもある液晶プラズマディスプレイが埋め込み装備されており、自社独自のデジタルソフトをインストールすれば、移動販売車に陳列している以外の自社商品をいつでもどこでも広告表示できてしまう。まさに多用途の「動くワゴン・セール」である。

電気自動車が人気のJARIブース

日本自動車研究所(JARI)は、乗車定員1名の小型電気自動車を4台展示した。いずれも30kgの貨物を搭載することができ、配送などに利用可能だ。4台のうち3台は減速エネルギーを電気に変えて充電できる回生ブレーキを備えるなど、小さいボディにハイテクが盛り込まれている。ブースでは、見慣れないクルマを見て思わず足を止める姿が見受けられる。充電時間は長いものの、充電1回あたりの電気代がガソ



モーターショーのバリアフリー化に活躍するボランティアスタッフ

商用車に加え、福祉車両が大きな柱となった今回の東京モーターショー。車いす使用者などのハンディキャップユーザーも多数来場しているが、会場にスムーズに移動するための補助を行うボランティアスタッフが対応に活躍している。

西、中央、東の各ゲートに合計12人が配置されている。ハンディキャップユーザーが介助人を伴わず一人で来場、もしくは団体で訪れる場合、エレベーターの乗降の際に補助が必要となることもある。 そんな時、ボランティアスタッフの出番となる。

スタッフのひとりで、ボランティア歴6年という森野荘聿氏は「最初はイベント運営の勉強の一環としてボランティア活動を始めたのですが、今では活動が習慣になりました。社会の役に立てて充実感があります」と語る。バリアフリー化はクルマだけでなく、ショー全体のコンセプトでもあるのだ。



▲ボランティアに立つ森野荘聿さん

車体

実用モデルからアイデア商品まで 多彩な商用車ボディを共同展示

中央ホールの商用車ボディ共同展示ブースでは、さまざ まな形態の商用車ボディを見ることができる。

輸送力強化の提案モデルとしては、日本フルハーフのJR、フェリーとのモーダルシフトに対応した軽量コンテナとトレーラー、東急車輌製造のオール軽油積載20kℓタンクトレーラー、パブコのクラス最大の容積を持たせた油圧ウイングボディが目を引く。

北村製作所の高さ調整式2トントラックは、荷室の高さを自由に変えることで、全高制限のある道路も通行できることが特長。富士車輌はごみの積み込みにスクリューを使って連続投入を可能にした新型塵芥収集車を展示。須河車



▲富士車輌の塵芥収集車はごみの圧縮搭載に スクリューを使った新型モデル。

体は小口配送専用車「ラクニー・V」、不二自動車工業はアルミボディのベンディングサービスカーなど、実用的なモデルを提案した。佐川



▲佐川車体はCNGトラックに太陽電池を組み合わせ、環境対応をアピール

車体は天然ガストラックに太陽電池を搭載したコンセプトカーで、エコロジー対応をアピールしている。

クラリオンとNAISロケーションシステムズはロジスティクスの高度化を狙った情報システムを紹介。住友スリーエム、リフレクサイトはプリズムフィルムによる安全反射テープのデモンストレーションを行っていた。

部品 商用車作りを支える部品が一堂に集結 福祉関連ブースも新登場

西ホールの部品エリアでは、商用車向け部品の展示が充実している。ブリヂストンはダブルタイヤをシングルタイヤにリプレイスする超扁平タイヤ「グレイテック」を展示。ダンロップ、横浜ゴムも省資源、安全関連技術をアピールしている。京浜精密工業は手動変速機をベースにクラッチ操作をなくし、シフトチェンジ機構を付加した新型ATで、運転手の負担軽減を謳っている。

商用車作りの基礎となる高品質の部品も多数出品。澤藤 電機のゼネレーター、マーレのエンジン部品、曙ブレーキ工 業の高性能ブレーキAssy、ニッパツのスプリングなど、世界



のトラック作りに欠かせないパーツが目 白押しだ。タコグラフをさらに高度化させたミヤマの運行監視システム「エコド

■次世代ETC機器など、ITS への対応技術を多数展示 するパナソニックブース



▲超扁平タイヤ、空気圧調整装置など安全関連 の展示が充実しているブリヂストンブース

ライブ」、パナソニックの次世代ETC商品群なども目を引く。 今回、福祉車両がショーのテーマに加えられたことを受け、 バリアフリー関連製品の出品も見られるようになった。タ カタはカーボン製の自動車用車いすを、レカロは自動車用 シートをベースとするバリアフリーモデルを出品。川島織 物は車いす用の素材に採用された「Banex」で、福祉分野の 拡大に意欲を見せていた。

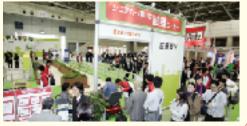
トピックス

福祉車両をじかに体験「ウェルフェアパーク」

車いす、電動車いす、各種福祉車両などに気軽に触れられる「福祉車両ウェルフェアパーク」には、試乗や操作体験の希望者で長蛇の列ができている。会場には電動車いすなどの試乗を行うミニコースが設置され、試乗者は説明員の話を聞きながら運転していた。コースの外にはさまざまなタイプの福祉車両が置かれ、車いすユーザーが福祉車両にどのように乗降しているのかを手軽に追体験することができる。「父が高齢になって足腰が弱ってきたため、クルマへの乗り降りが難しくなったのですが、福祉車両を使うと簡単に一緒に外出できますね」(乗降を体験していた高橋正志さん)

ウェルフェアパークには福祉車両に関する相談窓口が設置され、自動車メーカーと自工会スタッフが常時待機。ユーザーが福祉車両に関する疑問について気軽に質問することができる。





「エリシオン」がベースの ▶ 「ALMAS CONCEPT」

ホンダー

スポーツ走行の雰囲気も満喫

6台の福祉車両を展示。"モビリティの夢"にチャレンジする"ホ ンダらしさ"を福祉車両の開発分野でも限りなく追求している。

ホンダのミニバン「エリシオン」がベースの「ALMAS CONCEPT」 は、外観からは普通車に見えるが、運転席のドアはリモコン操作 で前方にスライドし、運転席はリフトアップシートが用意され、 さらに後部座席には自動の車いす昇降装置が付いている。車い すを利用している人が、自分自身で運転席に乗り移り、同時に車



▲「POWER TECHMATIC」はスポーツ走行を体感





▲電動車いすの 「モンパル」

いすをたたむと自動的に後部座席の収納用ロッドにセットさ れるというシステムだ。

このシステムは、二輪の元WGPライダーで、走行中の事故で 現在は車いす生活の青木琢磨氏のアドバイスによって開発され たもの。

「フィット」がベースの「POWER TECHMATIC」は、手操作に よるアクセル、ブレーキでもダイレクト感が楽しめるスポーツ タイプのコンセプトカー。このほか、展示ブースには3台の市販 車の福祉車両と独自開発の電動車いす「モンパル」なども展示さ れており、ホンダらしい"移動の喜び"を提案している。

小池環境大臣が各社の展示ブースを視察

小池百合子環境大臣は11月5日午後、東京モーターショー会場 を訪れ、約1時間にわたり、車両メーカーのブースなどを視察した。 オシャレでファッショナブルな車両が多いのに驚き「動く装飾の ようだ」と感想を述べた。

地球温暖化防止のための国際条約「京都議定書」が、来春にも発 効する見通しとなったが、小池大臣は「環境配慮のクルマが主流で 各社がその分野で競い合っており、希望が持てる。メーカーの環境 への取り組みについて気概を感じた」などと語った。また、「クルマ

はよく運転します」と言う小池大 臣は、ハンズフリー通話などがで きる最先端のテレマティクスのデ モンストレーションを体験した。





国土交通省

シンポジウム

環境に優しい貨物輸送をめざして 国際会議室

14:00~16:30 事前登録者優先

国土交通省

11月5日(金)10:30~13:30/国際会議室

世界最先端の低公害車づくり ・ディーゼル車公害ゼロを目指して~

●講師

池上詢氏(京都大学名誉教授)

野田明氏(交通安全環境研究所環境研究領域長)

佐藤由雄氏(DMEトラック開発チーム) 後藤雄一氏(CNGトラック開発チーム)

林田守正氏(シリーズハイブリッドバス開発チーム) 成澤和幸氏(パラレルハイブリッドトラック開発チーム)

青柳友三氏(スーパークリーンディーゼルエンジン開発チーム)

国土交通省は現在、次世代低公害車開発促進プロジェクトを推 進している。プロジェクトの軸となる5つの技術について、開発成

果が発表された。冒頭、池上氏が基調講 演で温暖化ガス削減の重要性について 訴え、野田氏がプロジェクトの概要を 説明。続いて各技術の開発担当者が、開 発状況の報告を行った。これらの技術は、 いずれも世界の排ガス削減技術の最新 トレンドに沿ったもので、参加者は聞 き応えのある研究発表に傾聴していた。



11月5日(金)14:00~17:30/中会議室201

トラック重大事故への挑戦(事故の現実と車両安全対策の役割) -第5回 自動車安全シンポジウム~

コーディネータ-

岩越和紀氏(JAF MATE社社長)

●講師/パネリスト

鮏川佳弘氏(日本自動車研究所安全研究部研究員)

大久保千穂氏(モーターライフジャーナリスト)

横塚正秋氏(埼玉県トラック協会会長)

堀野定雄氏(神奈川大学工学部助教授)

杉浦秀明氏 (日本自動車工業会安全·環境技術委員会大型車部会部会長) 和迩健二氏(国土交通省自動車交通局技術企画課国際業務室長)

5回目となる自動車安全シンポジウムは、第1部では和迩氏が「車 両安全対策の最新動向」を報告、続いて鮏川氏が「大型車の事故実態」、 杉浦氏が「大型車の安全性向上」についてスピーチを行った。第2部

では岩越氏がコーディネーターを務め、 今後の大型トラックの車両安全対策の あり方について、それそれの立場から 活発な議論が繰り広げられた。「10年間 で5000人以下」という新たな目標の達 成に向けて、効率的な安全対策の取り 組みが必要との意見が多かった。



岩越和紀氏

参加・体験型イベントが盛りだくさん!

シンポジウム



トラフィック戦隊アンゼンジャー (南休憩ゾーン) ·10:30~10:55 ·12:45~13:10·14:00~14:25

キャンプ・ネポス(南休憩ゾーン) ·11:35~12:00 ·13:30~13:55 県警腹話術(南休憩ゾーン) $\cdot 11:00 \sim 11:30$

みんなで考えよう車の税金 中会議室201 14:00~15:30 事前登録者優先

Tekye Meter Shew

東京モーターショーニュースVol.4 2004年11月6日発行

発行所 社団法人 日本自動車工業会 広報室 〒105-0012 東京都港区芝大門1丁目1番30号 日本自動車会館 TEL.03-5405-6119 FAX.03-5405-6136

WEB SITE www.tokyo-motorshow.com

